

令和8年3月13日

那須烏山市議会議長 中山五男 様

J R 烏山線利用促進特別委員会委員長 高木洋一

所管事務調査結果報告書

令和4年第3回6月定例会において本委員会が申し出を行った閉会中の継続調査の結果について、那須烏山市議会会議規則（平成17年10月那須烏山市議会規則第1号）第109条の規定により、次のとおり報告します。

- 1 調査期間 令和4年6月16日から令和8年3月13日まで
- 2 構成委員 高木洋一、渋井由放、堀江清一、興野一美、高田悦男、平塚英教
- 3 調査事項
 - (1) J R 烏山線利用促進に関する事項
 - (2) その他特に必要と認めた事項

4 調査結果

本委員会では、本市の重要な地域資源である J R 烏山線を存続させ、地域を盛り上げる一助とすべく、また、全国でも数少ない蓄電池駆動電車である ACCUM を、観光振興及び地域活性化に結びつけていけるよう、利用促進を目的とした事業に関し、調査研究を行った。

(1) 定例会期間中における J R 烏山線を利用した登庁

調査研究を行うのみならず、J R 烏山線の利用向上の取り組みとして、定例会期間中における J R 烏山線を利用した参集を全議員に呼び掛けた。

(2) 山あげ祭開催期間中における観光客のお出迎え

J R 烏山線とこれを取り巻く地域を盛り上げる一助とすべく、山あげ祭開催期間中には毎年烏山駅前にて横断幕を掲げ、J R 烏山線を利用した観光客のお出迎えを、全議員に呼び掛けて行った。

(3) 高根沢町議会との情報交換会

令和4年9月29日及び令和8年2月9日、高根沢町議会議員との情報交換会を開催した。J R 烏山線の現状と課題、各市町で実施した利用向上の取り組みについての

情報共有を行った。ＪＲ烏山線の存続は、走行区間である両市町の連携が必要不可欠であることから、今後も定期的な情報交換の機会を設けるよう望むものである。

(4) ＪＲ東日本に関する勉強会

令和４年１２月８日、みずほ証券より講師をお招きし、ＪＲ東日本の基金運用事例を題材とした勉強会を開催した。専門的な知見に基づく最新の市場分析や具体的な運用手法を学ぶことで、基金管理におけるリスク意識と運用の高度化に向けた理解を深める貴重な機会となった。

(5) ＪＲ東日本輸送サービス労働組合との意見交換会

令和５年１月１７日、ＪＲ東日本輸送サービス労働組合との意見交換会を開催し、ＪＲ烏山線の維持や労働環境の現状について活発な議論を行った。対話を通じて、鉄道輸送サービスが地域経済に果たす役割と課題を再確認し、今後の調査研究に資する有意義な機会となった。

(6) ＪＲ烏山線開業１００周年記念事業

令和５年４月１５日、ＪＲ烏山線開業１００周年を記念し、ヘッドマークを取り付けたセレモニー列車が運行され、全議員に呼び掛け、烏山駅のホームにて記念セレモニーへの参加とセレモニー列車のお出迎えを行った。

令和５年７月２２日、山あげ祭の開催に合わせてＪＲ烏山線開業１００周年を記念した屋台パレードが行われた。特別委員会においても全議員に呼び掛け、記念フラッグと横断幕を掲げ参加した。

令和５年１０月１４日、烏山駅前にて行われた開業１００周年式典に参加した。長きにわたり地域の足として愛されてきたＪＲ烏山線の歴史を振り返るとともに、次なる１００年に向けた鉄道網の維持と、沿線地域のさらなる発展に寄与していく決意を新たにする貴重な機会となった。

(7) ＪＲ水郡線サイクルトレイン視察

令和５年５月７日、ＪＲ烏山線新規サービス導入の調査研究のため、ＪＲ水郡線において実施している「サイクルトレイン」のサービスを、実際に自転車を持ち込み視察した。

車両内では、自転車は空きスペースに固定するほか、座席に座って手で保持することも可能となっており、安全に乗降することができた。

(8) ＪＲ東日本旅客鉄道労働組合との意見交換会

令和５年６月１５日、ＪＲ東日本旅客鉄道労働組合との意見交換会を開催し、ＪＲ烏山線を活用した地域活性化イベントの企画などについて活発な議論を行った。鉄道

のリソースを活かした観光振興や市民交流の可能性について、現場の知見を持つ組合側と具体的なアイデアを共有することができ、今後の検討に向けた示唆に富む、大変意義深いものであった。

(9) J R 烏山線 ACCUM 導入 10 周年記念事業

令和 6 年 1 月 23 日、烏山駅前で行われた J R 烏山線 ACCUM 導入 10 周年記念式典に参加し、ヘッドマークを取り付けたセレモニー列車のお出迎えを行った。環境に配慮した最先端技術が地域の足として定着し、この 10 年間で果たしてきた役割を改めて認識するとともに、持続可能な地域交通のモデルとして、さらなる利便性向上と沿線の魅力発信に注力していく決意を新たにする実り多い機会であった。

(10) J R 男鹿線視察

デジタル駅スタンプアプリ「エキタグ」において「『ACCUM』でつながる烏山線×男鹿線エキタグスタンプラリー」が開催されることに伴い、令和 7 年 2 月 3 日、4 日の 2 日間にわたり秋田県男鹿市を訪問し、スタンプラリーへの参加及び J R 男鹿線の視察研修を行った。

男鹿市では、公共交通利用促進に向けて、毎月 1 回「ノーマイカーデー」の実施や、市営バスとの連携、ナマハゲのラッピングをした ACCUM の運行といった施策について説明を受けた。

(11) J R 烏山線サイクルトレイン実証実験への参加

令和 7 年 2 月 24 日、J R 烏山線におけるサイクルトレインの実証実験に参加した。委員全員が自転車を持ち込み列車に乗車したが、利用予約後に発行される QR チケットの使用方法がわかりにくいことや、車内における自転車の取り扱いの明確な案内がなく、利用者が迷う可能性があることなど、体験を通じていくつかの改善点が見受けられた。

(12) 本庄市議会との意見交換会

令和 7 年 6 月 9 日、埼玉県本庄市議会交通政策及び観光政策特別委員会との意見交換会を実施した。本庄市議会では J R 八高線へのサイクルトレイン導入に向けて活動を続けており、サイクルトレインの実証実験に参加した本市議会の取り組みなどについて報告した。両市が公共交通の利便性向上と観光振興に向けて抱える課題や展望を共有でき、活発な意見交換が行われた。

現在、運行する ACCUM は、全国でも数少ない蓄電池を活用した電車であり、利用促進の目玉になり得る要素がある。これらを含む J R 烏山線の魅力を、今後も観光振興及び地域活性化に結び付けていけるように望むものである。